

令和6年度 第1回 二宮町環境審議会会議録

日 時：令和6年11月11日（月） 午後2時00分～午後4時00分

場 所：二宮町役場2階 第1会議室

出席者：室田会長 / 土谷委員 / 阿部委員 / 渡辺委員 / 真下委員 / 橘川委員
/ 三島委員

事務局：安藤環境産業担当参事 / 山口生活環境課長 / 石川主事補

1. 開会

2. 委嘱状交付（机上配付）

定期改選により8名の方に委員委嘱をさせていただいたが、うち2名が新規、6名が継続という形となっている。

3. あいさつ

会 長：本年度の第1回会議となるが、本審議会は町の「環境」をより良いものにしていくために意見をいただく場なので、忌憚のない発言をお願いします。

4. 委員紹介

5. 審議会規則等

6. 議題

（1）第3次二宮町環境基本計画前期実施計画（令和5年度）の進捗状況等について

『資料1：前期実施計画事業計画（令和5年度）の進捗状況について（案）』

『資料2：前期実施計画事業計画（令和5年度）の進捗状況に対する委員意見一覧』

について事務局より説明。

【審議結果】

- ・『資料1』の「Ⅳ トコトンにのみやプロジェクト進捗状況及び評価」は、個々の指標で評価をまとめるのではなく、3つの「トコトンにのみやプロジェクト」のレベルで評価することとし、取り組みの詳細は「一覧」に示すこととする。
- ・『資料2：前期実施計画事業計画（令和5年度）の進捗状況に対する委員意見一覧』及び本会議で出た意見を事務局でとりまとめて案を作成し、審議員の確認を経て意見とする。
- ・「後期実施計画」の策定に向け、今後どのような「指標」を設定するべきかについての検討を早期に進め、試験運用等により現況を把握し、指標として適切かを検証する。

【質問・意見等】

委員：改めて確認するが、本会議での進捗状況の審議結果はどのような形で公表されるか。冊子にされるのか。

事務局：年末までに町のホームページで公表する予定であり、印刷はしないが例年と同様、冊子のようなイメージとなる。

会長：後期実施計画では、現在のインプット指標から、理解度や行動変化を測定するアウトカム指標へと切り替える必要があるが、情報伝達度や行動変化を数値にして測定するのは容易ではないという課題がある。

事務局：情報伝達度の測定をアンケート等で把握することは難しく、行動変化もどのような指標を用いれば適切と言えるか判断が難しい。例えば、前基本計画においては、葛川清掃により回収されたごみの量を指標にしていたことがあったが、当時の委員意見で回収量が減った理由が清掃努力が足りず回収量が減ったものなのか、清掃努力により川の浄化が進み回収量が減ったものなのか、原因を特定することができないので、ごみの量を指標にするのはそぐわないとの指摘があり、「葛川をきれいにする会」の協力のもと、葛川に生息する水生生物種数を指標に変更したこともあった。

現在、「葛川をきれいにする会」が協力する「環境づくりフォーラム」のイベントの一つに、こども達を対象に葛川の中に入って生き物観察をする「葛川に親しもう会」というものがあり、その中でアウトカムに近い指標を設定できるかもしれない。

委員：学術的な指標とは言えないが、こども達に遊びを通じて環境に目を向ける機会を与えながら、水生生物や水質の変化に気付いてもらえる面で、町らしい指標だと思う。

会長：県では、中高校生を始めとした市民を対象に、生物の調査方法等を講習いただき、定期的に調査してもらっているとのことだが、どのような調査か。

委員：環境 DNA 調査という手法を取り入れているが、課題もあり、検査費用が高価な上に、取り組みが始まったばかりで、データベースが整備されていない。

委員：環境 DNA 調査は興味深いが、町の規模にはそぐわない印象を受ける。数値指標に囚われ過ぎの気もするので、例えば、登下校の際に町に息づく生物を見かけたことを簡単なチェックリストで報告する等でも環境意識の醸成につながると思う。

委員：町民目線で、誰でも参加できるような指標だとよい。

事務局：行政計画となるため、継続性が見えないものを指標にするのは難しいが、学校や環境団体とも連携した指標づくりにチャレンジするのはいい試みだと思う。

指標の見直しに関する意見を多数いただいているが、新型コロナウイルス感染症蔓延化で指標の設定が困難だったとは言え、前期実施計画をスタートしたばかりで変更することは難しいので、後期実施計画に向け、指標に関する意見をまとめておき、必要なものは試験的に実践して、データベースの土台となる数値を把握できるよう努めていきたい。

事務局：進捗状況及び評価のまとめ方について、第3次計画より重点な取り組みを「トコトンにのみやプロジェクト」として管理することになっているが、それぞれの指標毎に評価の内容等を記述すると、P9以降の「進捗状況一覧（資料 1-2）」と内容が重複してしまうため、3つの「トコトンにのみやプロジェクト」のレベルでまとめてはどうかと考えているが、ご意見があれば伺いたい。

会 長：見る側の視点としては、わかりやすいと思うので、そのまとめ方で問題ないと思う。

事務局で文案を作成していただき、後日、審議員の確認を経ることによろしいか。

委 員：本会議で出た意見を進捗状況に対する委員意見のとりまとめと合わせ、事務局に一任するので、事務局でとりまとめたものをメール等で送ってほしい。

（２）地球温暖化対策実行計画区域施策編（案）について

『参考 1：二宮町地球温暖化対策実行計画(区域施策編)』

について事務局より説明。

【質問・意見等】

事務局：二宮町では、現在、「にのみや気候市民会議」と同時並行で「地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」の策定準備を進めているが、自治体によっては「環境基本計画」と区域施策編を統合している例もあり、進捗管理などの事務手続きを考慮すると、いずれは環境基本計画への統合もあり得るため、素案について報告させてもらった。

委 員：この計画の推進にあたり、町はどのくらいの予算を用意できるのか。

例えば、再生可能エネルギーの導入が目標に掲げられているが、町民に促進するにあたって 1 人当たりどのくらいの補助金を交付する予定なのか。

事務局：全ての世帯に補助金を交付するだけの予算を確保することは難しい。国が実施する補助金も、モデルケースとなる先行自治体のみに交付しており、その制度も終了する見込みであるため、十分な促進を図るための財源を見付けることは困難と言える。

委 員：それだと、町民自らが自助努力をするという結論になるが、果たして実行力がどのくらいあるのか疑問である。

10 年前に太陽光パネル導入補助金が交付された際に太陽光パネルを設置した家庭では、現在、出力が下がってきており、取り換え時期に差し掛かっているので、新たな補助金が交付されないようでは、金銭的な負担を各家庭に強いることになるため、思うように促進できないと考えられる。

委 員：再生可能エネルギーの導入ポテンシャルはどのように算出されたものか。

事務局：環境省が示すガイドラインに基づき算出した数値だが、太陽光パネルの設置については予算面の課題だけでなく、各家庭がいつまで家を維持するのかという問題もあるため、目標達成は容易ではないと考えている。

町の財源では限界があるので、県が展開している太陽光発電共同購入事業を始め、色々な事業展開がされているので、国や県を巻き込んだ総力戦で挑むことになると考えている。

なお、再生可能エネルギーの導入は、太陽光パネルを設置することに拘らず、再生可能エネルギー由来の電力会社から電力を購入することでも同様の効果がある。

委員：大切なのは、多少の費用がかかっても、環境性能の高い製品・サービスを選ぶ人が二宮町に増えることだと思う。

委員：8月末に生じた台風による大雨での葛川溢水も気候変動の影響の一つだと思う。

私たちが今後、気候変動が進む世界において生き残っていくためにも、自然エネルギー主体の電力会社へシフトチェンジしていくことが重要だと思う。

委員：再生可能エネルギーの導入により得られる効果を費用とともに、目に見える数値として示し、アピールする必要があると考える。

事務局：太陽光パネルの促進が開始された当初は固定価格買取制度により、投資回収も見込めたが、売電価格が下落や改修のための費用もかかるので、費用面で必ずしもプラスが見込めるわけではなく、処分する際の費用や環境負荷という課題もある。

一方で、完璧な対策がないから取り組まなくてもよいというのは違うので、今できる最良のことに取り組む必要があると考えている。

委員：まだ素案の段階とのことだが、基本目標の最初が「再生可能エネルギー」と記載されていることに違和感を覚える。

会長：まずは「省エネルギー」ということか。

事務局：あくまでガイドラインに基づき、作成したものなので他意はない。

委員：それは分かるが、町民がこの計画を手にとったときに、「再生可能エネルギー」のが最初だと、自分には無理だと諦められてしまうのではないかと不安がある。

委員：自然環境のことを優先して考える人もいれば、経済効率性が大事と考える人もいる。多様な意見が二宮町の中でもあると思うが、どうやって合意形成まで持っていくかは諦めてはいけないと思う。「こんなこと実現できない」と思ってしまったらそこで終わってしまうので、そういった意見対立をどう乗り越えていくのかという視点で行動していくことが大事だと思う。自分たちのこども、その孫、その次の孫の世代のためにも、その時々をベストを尽くすことが、今を生きている自分たちの責任と考えている。

委員：商工会の理事会で、先日「千年にのみや地球会議」のチラシ等を配布した際、自分の事業について考えてしまう方が多く、あまり自然環境に対して重きを置くことが難しい状況だったが、二宮で生まれ育った方が多く、町が好きで町内で商売をしたいと考えている方々なので、その環境を守っていくことが必要と話させていただいたところ、チラシを持ち帰られたので、ちゃんと伝えていくことが大切と感じた。

事務局：今回の資料は、あくまで国のガイドラインに基づき作成した行政計画であり、町民目線で見ると決して見やすいものではないと思うが、実際に環境行動を促す際にはこの計画をそのまま配るのではなく、構成や見せ方を工夫したパンフレットのようなものを別に作成したいと考えている。

(3) その他について

『参考 2：二宮町環境審議会の連絡調整等について』
について事務局より説明。

【質問・意見等】

事務局：次回の開催は、来年 2 月となるが、日程調整は改めて連絡させていただく。

7. 閉 会